

## 議員から寄せられた意見

## ①市立長野高校に参加

## A議員

- ・企画（テーマ）も適切で、進行もスムーズに行われ、生徒さんも積極的に意見を述べてくれた。全体的によい意見交換会だったと思う。
- ・テーマの選択について、生徒さん達から意見聴取があったか、聞きそびれた。
- ・この後の扱いについて聞いていないが、今後のためにちょっとした所感でいいので、生徒さん達や学校関係者から頂戴できればと思う。
- ・意見を聞きっぱなしではよくないと思うので、参加した生徒さん達に何らかのメッセージを送った方がよいのではないか。
- ・よい企画、カフェトークだったので、内容に関して市民への宣伝、報告を議会だより以外にもしたいところ。（要望）

## B議員

## 1 今回について

- ・若者の、率直で現実の日常体感を自由に聞く場面として有意義
- ・場所に関して、日常、自分たちの馴染みのある生活エリアでのぎっくばらんな意見を話せる場面で、馴染みの友人と会話しながらの意見を言いやすい事も良策だったと考える。\*緊張せず想いを語っていたと見受けられた。

## 2 協議内容について

- ・テーマ自体、難しい『施策』で無かったことは良策だったと思われる。

## 3 今後について

- ・定期的に市立と清泉は継続することが必要
- ・議会としてグループ分けしての出向いてのカフェトークも必要と考える
- ・両校だけでなく受け入れ可能な大学・高校又は中学等に出向いて要望を聞く場面設定が有ってもよいかも。
- ・類似の自治協とのカフェトークに、一歩踏み込むことも考慮してもいい。

## C議員

- ・生徒と議会の意見交換会は今回、初の試みだったが、大成功だったと思う。
- ・市政課題がテーマであったのもよかったし、テーマに対して生徒からは未来思考の意見を聴くことができよかったと思う。正直、これまでの意見交換会は、終了後モヤモヤすることが多かったが、今回は実のある充実した意見交換会だった。

- ・生徒からいただいた意見を市政発展に活かしていきたいと思う。議員や市政を身近に感じてもらえるようにするためにも、継続していくことを希望する。
- ・生徒に、議会からフィードバックできる機会（発信）があるとよいと思う。

#### D 議員

- ・今回の「カフェトーク」企画は、普段なかなか、生徒や学生さん（若い世代の方）とじっくり話す機会がない中、貴重な時間を共有することができ、本当に有意義な時間を過ごすことができたと感じている。
- ・今後は、定期的にこうした懇談の機会を通して、相互理解の場を設けていくことが大事ではないかと思う。
- ・可能であれば、今度は、生徒や学生さんを長野市議会に迎え、例えば、議場や委員会室等を案内しながら、議員の仕事場を実際に見てもらうこともよいのではないかと考える。

#### E 議員

- ・「相手の意見を否定しない。きちんと聞く。」という経験がなかったので、自分自身、大変ためになった。おそらく、他の皆さんもそうだったと思う。この姿勢は、実に新鮮で大変勉強になった。（事前説明会の演習も勉強になった。）
- ・生徒さんが目を輝かせて、いろいろお話をしてくれたのが大変よかった。
- ・テーブルホストに必ずサブがつき、かつ、活性化委員もいるという体制がよかった。最初は「過保護すぎるのでは」と思ったが、実際にやってみると、やりながら修正でき、生徒さんもこちらが少しでも多い体制で聞いている姿勢を見せていると、より積極的に意見を言う雰囲気になったと思う。
- ・意見とともに話してくれる表情などを見ていると、選挙権、もしくは選挙権を得る直前の生徒さんと接する機会は間接的に「主権者教育」に結び付くと思った。

#### F 議員

- ・本当にいい経験をさせていただいた。
- ・最初のグループ、アイスブレイクしてよい感じになったところでチェンジ。→交代した生徒たちはアイスブレイクできてない状態であつたので軽くアイスブレイクしてから意見を聞く。→3つ目のグループは温まった状態であつたので多くの意見が聞けた、という感じでした。短時間だったので、3グループではなく2グループでもよかったかもと感じた。
- ・高校生だったので、「どんな仕事があれば帰ってきたいか」という質問は少し難しいかと感じた。まだ「仕事」に対し現実味がなく、どんな仕事があると

いうのも「イメージ」で答えているような感じであった。

どうやって通学しているか、不便はないか、今欲しい施設「勉強するところが欲しい」など、高校生にとっての「現実」が見えて、ここは市としても考えていかなければならないことだと思った。自分たちの意見が取り入れられて、若者の意見で住みやすい街を作っていける、という経験が「将来長野に住みたい」というところに繋がっていけば嬉しいことである。

・できれば、毎年継続して、高校生たちに意見を聞いていきたい。なぜなら、「今どきの高校生」の定点観測というか、その時々若い子たちが、例えば休みの日にどんなところに遊びに行くのか、今一番困っていること、助けてほしいこと、どんな夢を持っているのか、どこから情報を得ているのか、など、長野市が選ばれる市になっていくために必要な情報だと思うからである。

社会人になると車の免許を取って不便が解消されるが、高校生は公共交通機関で移動していて、バス・電車の減便は死活問題。居場所をつくらないと、事件に巻き込まれ、悪い大人の餌食にならないか心配である。

・機会があれば、独身の若者、新婚世帯、子育て世帯、移住者などの話も聞いてみたい。

## ②清泉女学院大学に参加

### G議員

- ・概ね良好だったと思う。
- ・ただ会場が狭く、みんなが話しているので、声が聞き取りにくい点が残念であった。
- ・菓子や飲み物を用意したので、場の雰囲気も和やかになったと思う。

### H議員

- ・10歳ほどの年齢差であったが「長野市のことをこんなに考えてくれているのか」と驚きを感じたと同時に、自分自身が楽しみながら参加することができた。
- ・特に気になった点はないが、開催まで大きな労力があつたと思うので、次回以降はより負担を軽減して開催できるよう、「不必要だった」と感じた点も広報聴取委員会に共有してほしい。

### I 議員

#### 1 運営方法

- ・開会での委員長、副委員長の説明や挨拶その口調がとても物腰柔らかかで、緊

張っていた空気が和らいだ印象でとてもありがたかった。

- ・服装を緩めで設定したことにより、自分も気張らず話すことができた。
- ・ワールドカフェ方式により、飲み物やお菓子を勧めながら、個人個人のペースで会話を進めることができていた。
- ・テーマごとメンバーを移動してもらうことでたくさんの方の意見が聞けて貴重だった。
- ・各テーマ20分であったが、前テーマの振り返り部分と話を深める部分の時間が取れず、少し早足になってしまった。

## 2 テーマ

- ・STEP 1～3までつながりのある設定で、自然な話の流れを進めることができたと感じる。

## 3 気になった点

- ・特に課題や問題点は感じなかった。  
学生の皆さんが話しやすかったか有意義な時間になったか感想が気になる。  
(議員が話をし過ぎていなかったか、ファシリテーターが機能していたか、意見を否定されなかったか)

## J 議員

- ・飲み物や菓子を用意してくれたのはとても有り難い配慮だったが、時間に追われてそれらをゆっくり楽しむ暇がほとんど無かったのが残念であった。
- ・非常に貴重な、若い人の生の声を聞くことができる機会で、相手方も「そういう話」をする前提で集まってくれるのでこちらとしてもやりやすかった。
- ・参加人数及びスペースに関しては、もっと余裕が欲しかった。教室中がとても賑やかで、相手の話が聞き取れないこともしばしば。
- ・途中で議論する相手が変わっていくのは一長一短ある。同じメンバーで話せないのも、それぞれのテーマから戻って深掘りするということができない一方、様々な意見を交わした上での議論により盛り上がる面もあった。
- ・自分の意見を「書くこと」に集中してしまい、話をする時間が短くなってしまふのが難点かと思った。書記的な役割をこちら（議員）側で完全に担ってしまえば、もう少し意見を引き出せたかを感じる。

## K 議員

- ・会場の広さの課題もあるが、テーブル同士の間隔が近く、騒がしくて声が聞き取りにくかった。
- ・女性の学生に対し、下の名前に「ちゃん」付けて呼んでいる議員がいた。自己紹介時に名字で答えても下の名前を聞き、「○○ちゃん」と呼んでいた。相

手を対等な関係として扱っておらず、ハラスメントとも考えられる。

#### L 議員

- ・ワールドカフェ形式のワークショップの進め方が、まだぎこちない印象ではあったものの、それでも学生たちに意見を出してもらったり、それなりにまとめるたりすることができたのはよかった。
- ・今後に向けては、改めてファシリテーション技術などを学んだり、経験を積んだりする機会があってもよいと思う。
- ・今回は学生とだったが、若い世代はワークショップに慣れているように感じる。意見を出したり、人の話を否定しないで発言するなど、基本的なマナーは守られていた。
- ・グループの人数に対してペンの本数が少なかったり、書けないものがあったりした。
- ・市民との意見交換会において、議員はお客様ではなく運営側だと考えるので、準備や片付けまで行うようにしたらよいと思う。
- ・想定する相手に応じて、参加しやすさや意見の出しやすさなども念頭にテーマや進め方を設定していくことの重要性を感じた。

#### M 議員

- ・大学生の切実な要望を聞くことができよかった。公共交通の充実は、学生の皆さんにとっても大変切実なことが分かった。
- ・特別委員会が主催して、市の南北2か所ぐらいで意見交換会を行うことも検討したい。

#### N 議員

- ・意見交換の場に慣れた皆さんで、とてもテーブルの仕切りがスムーズだった。始めるまではテーマが難しいかと思っていたが、大学生となると、1年と4年では経験の差が出ているので、意見が幅広く聞けてこちらが勉強になった。  
車で通学している方は、除雪に関しての話まで出てきたので、社会人の感じる課題に近いことを話され驚いた。  
参加学年が違うことで、若い学年の学生にも刺激になったのかなとも感じた。
- ・テーブルを仕切るにあたり、時間配分は各議員に任せたいと思った。具体的には、最初の自己紹介あたりはそれぞれのやり方で仕切ればよい。理由は、学生が3テーブルまわるので、色々な時間の使い方を感じ取ってもらえればと思った。
- ・学年ごとに分けての開催、高校であれば男女別テーブル、男女混合テーブル

織り交ぜながらも面白いのではと思った。

テーマでは、高校生以下なら「信州やまなみスポ」についてなど、将来関係しそうな話題も必要ではと感じた。

・カフェトークとしての活動とは変わるが、学生が意見を発する場はとても参考になるので、「我々が傍聴に行く」ことも広報広聴としての活動になるのではないか。

#### ○議員

・隣のテーブルとの距離が近く、グループの方の発言が聞き取りにくい場面があったので、もう少し余裕のある場所であればよかったと思う。

・参加してくれた皆さんが積極的に発言してくださったので進行しやすかった。

・直接、聴くことの大切さを感じた。「街灯がほしい」「明るい街になってほしい」という意見が多く、帰りのバスから見た学校周辺の暗さに驚いた。